

2020年度

S C

小 論 文

3月12日(木)

人 文 社 会 科 学 部 (法学科)

10 : 00 ~ 11 : 30

【後 期 日 程】

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(2枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、8ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(2枚)を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 問題は、声を出して読んではいけません。
- 6 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 7 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

補 足 説 明

科 目 小 論 文 (S C)

補足説明

7 ページ (文中の参考文献)

(誤) 菊池文彦 (2013) 『「幸せ」の戦後史』 トランスビュー

(正) 菊池史彦 (2013) 『「幸せ」の戦後史』 トランスビュー

なお、本文中 (3 ページ 9 行目) に『菊池文彦』の記載があるが、引用元の記載の通りとしている。

日本の貧困や格差について書かれた次の問題文を読み、設問に答えなさい。なお、問題文を掲載するにあたり、原文中の見出しの一部ならびに図表および関連する記述を省略しています。

(著作権許諾手続中)

(著作権許諾手続中)

(著作権許諾手続中)

(著作権許諾手続中)

(著作権許諾手続中)

(著作権許諾手続中)

(著作権許諾手続中)

(出典) 橘木俊詔『新しい幸福論』(岩波新書 2016) 26-43 頁

なお、出題にあたって、縦書きを横書きに変更し、一部の漢数字は算用数字に置き換えています。

また、＜中略＞の箇所は省略した図表に関する記述のため省略した箇所です。

(文中の参考文献)

橘木俊詔・浦川邦夫(2006)『日本の貧困研究』東京大学出版会

橘木俊詔(2009)『働くことの意味』ミネルヴァ書房

(2011)『無縁社会の正体』PHP 研究所

菊池文彦(2013)『「幸せ」の戦後史』トランスビュー

ドウォーキン, ロナルド(2002)『平等とは何か』小林公・大江洋・高橋秀治・高橋文彦訳, 木鐸社

Roemer, J・E(1998) *Equality of Opportunity*, Harvard University Press

[設問]

- 問 1 下線部①「機会の格差」とは何かを，本文を参考にしながら 100 字以内で説明しなさい。(配点 20 %)
- 問 2 下線部②「なぜ機会の格差を考慮することが大切であるか」について，筆者の考えを 150 字以内でまとめなさい。(配点 20 %)
- 問 3 本文中で指摘されている日本での貧困の問題状況などを踏まえ，日本での機会の格差ないし不平等についてどうすべきだと考えるか，例を挙げながらあなたの考えを 600 字以内で説明しなさい。(配点 60 %)